

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 79 号

令和2年3月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次／講演会風景	P.1
第57回北里大学同窓会講演会	P.2
水産学部卒後30年の集い	P.3
〃、恩師のメッセージ	P.4

研究室近況	P.5
準会員活動報告	P.6
親睦会報告	P.7
お知らせ	P.8



花束贈呈



椎名誠氏



講演風景



小林理事長御祝辞

第57回北里大学同窓会公開講演会報告

三水会監事 材津 裕 (5FA)

リニューアル工事が完了し、プラチナタワーが輝く白金キャンパスにおいて、11月9日(土) 14時から第57回北里大学同窓会公開講演会を大村記念ホールで開催致しました。

会に先立ち、北里大学同窓会大内孝文会長のご挨拶を頂き、また、学校法人北里研究所理事長小林弘祐先生から57回を数えた北里大学同窓会講演会に際し、成功を記念してお祝いの言葉を頂きました。

講演は作家の椎名誠先生が「辺境の食卓」というテーマで開催されました。

皆様ご存知の通り、椎名誠先生は作家として数多くの作品を書かれています。旅の本、特にモンゴルやパタゴニア、シベリアなどへの探検・冒険物も多く、また作家の枠にとらわれず幅広い活動をされています。ちなみに無類のビール好きとしても有名です。

「食べ物について話をします。」と講演は最初、淡々とスタートしました。まず、ロシアでのお話から始まり



内藤副会長挨拶

りました。ロシアのお話から始まり、シアのお店事情から始まり共産主義国家での独特のサービス事情からまずいロシア料理の話ま

でお話しされてから一転、途上国での話になりました。食事は途上国の方がおいしいそうで、途上国では「市場」へ行く事が多いそうです。それはその国の食生活が分かるからですが、日本の市場との違うところで、椎名さんもヘビ自体は嫌いだがヘビを食べるのには好きだそうです。それもある毒ヘビの方が無毒より味がいいのか値段が高い！。ベトナムではコブラの大きい(キングコブラ)を売っているところもありますが、1mから1.5m半のサイズが一番おいしいそうです。特にコブラサンドは肉がシャキシャキしていて癖になってしまいうぐらい旨いそうです。毒が強ければ強いほど旨いのはアマゾンでも一緒にアマゾンにはアナコンダがいます。

ちなみにアマゾンでは現地の方々と仲良くなるため、1.5cmの「ありしゃぶ」を食べたそうですが、胃酸が強くて強烈だったそうです。講演の中では、アメリカは近年良くなってきたというが、日本は食品行政がだらしない体にくく悪い物を食べさせている、日本はある意味野蛮な国だといった海外の経験を踏まえた現在の日本に対する鋭い批評も話されていました。

講演の後半は世界各地へ行かれた際のスライドを使ったまさに「辺境の食卓」のお話でした。太平洋の島々でのサメ(結構うまい)、アラスカで夏、狩りに行った時のカリブ、ラオスのリスとキジ、カンボジアのカ

ブトムシの蛹、クモのから揚げ、カエル(焼いて食べるとうまい)、ヘビ、ロシアのほや、アザラシ等々。全部本当に食べたのでしょうか？

ところで、写真の中でも水汲みをする子供の写真が何枚ありました。が、その際、これから世界で大変なのは水であり、日本は水に恵まれている。日本、インドネシア、カナダ、アイスランドは水に苦労しない国だと最近話題の国際的な水事情についてもさりげなくお話しされていました。

その他にもブッシュマンの砂トカゲ(土の中で蒸し焼きにして食べるそうです)、さそり、ムカデ、チベットのカモ、パラグアイのワニ、ブラジルのナマズ、南タヒチのタロイモ等々続き、最後に椎名先生が最高に旨いという食物のスライドがあり、パタゴニアで一時間かけて焼く30人ぐらいのカウボーイと食べる羊だそうです。(何回も行かれていますそうです)

ここで、時間の関係もあり講演自体は終了し質問時間となりました。

時間の限り会場からの質問に答えられましたが、最初に小林理事長から「おなかを壊さないのか？」との質問がありましたが、それ

が、それ



講演後質疑

に対しての答えは「若い頃、格闘技をやっていた、それが年を取って役に立っている気がする」と、5歳の頃、東京から千葉へ引っ越したが自然があり子供にとっては楽しい環境で心と体が鍛えられたのではないかと。それと話は違いますが、外国の食物は寄生虫に気を付けたいといけないが焼けば大体のものは大丈夫(意外と慎重な性格が伺えました)ただし分らないものは放射能だ」とおっしゃっていました。また、家族の方にも旅行先はあまり話されなかったそうですが、「行った先で、(日本に)家族がいると思っている」ことが人の気持ちを強くしてくれた、と答えられていたのが印象的でした。

最後の質問は椎名先生のファンの方から大好きなビールの「あて」に関してでしたが、その話の中でドイツミュンヘンの「オクトーバーフェスタ」のトイレの霧の話(話の詳細はとてこの紙面には書きません！ご容赦下さい)で会場が最高に盛り上がり、大爆笑と大きな拍手の中で講演会は無事終了となりました。

今回の講演会には約200名のご参加を頂きました。卒業生、在学生、教職員の方々、また地元白金の一般の方々の参加も多く、大盛況のうちに終えることが出来ました。

最後に開催にあたり全面的にご協力いただきました北里大学、北里大学同窓会、そして各学部同窓会各位に心より感謝いたします。

水産学部卒後30年 水産学部4期5期6期の集い を開催して

水産学部水産食品学科4期生
伊藤 知尋



秋も深まりました11月9日、白金キャンパス学生食堂（スエヒロ）にて「水産学部4期5期6期の集い」

卒後30年の集いが開催されました。思い返せば1年ほど前、三水会事務局よりの一本の電話でした。「456期生の卒後30年の集いをやりたいんだけれど、手伝ってもらえないだろうか？」との事。軽い気持ちで「いいよ。」と返事をして、いざ第一回の検討会に出席したところ「伊藤お前委員長をやってくれ」青天の霹靂でした。あれよあれよという間に、開催検討委員会の委員長に担ぎ上げられてしまいました。その後数多の検討委員会を重ね（7回＋α）当日の開催の運びとなりました。

さて開宴に先立ち三水会会長高橋明義先生の挨拶、北里大学海洋生命科学部学部長菅野信弘先生のご祝辞を戴き、懐かしの「酔仙」菰樽の鏡開きを行いました。

引き続き乾杯のご発声を学校法人北里研究所常任理事緒方武比古様（在学中三陸にてお世話になりました。）に執って戴きました。なだれ込むように宴会となり、酒が進むに

つれ30年（実際は40年）があつという間にタイムスリップして三陸の学生時代に戻ったのでした。本来でしたら10年前にこの集いは開催されるはずでしたが、震災があり、学部移転があり、また水産学部から海洋生命科学部へと紆余曲折を経て本日に至りました。会場では三陸時代の各期のスライドが流れ、懐かしい場面が映し出されるたびに話に花が咲き大いに盛り上がったのは言うまでもありません。また当時水産利用学研究室の川内浩司先生よりの祝辞（司会者代読）、三陸時代にキャンパスで事務をされていた中島勇喜さんよりビデオメッセージも届いたのでした。参加頂いた山森邦夫先生、井田齊先生を囲み、3時間という歓談の楽しい時もあつたという間に過ぎ、いよいよ閉会が近づくと各期総勢百有余名の参加者から期せずして水産放浪歌の大合唱となり、肩を組み先輩後輩の区別なく大声を張り上げてお開きとなりました。記念品として酔仙酒造株の「雪つこ」ワンカップと4・5・6期同窓会ロゴ入りの一合升が参加者に配られました。各自三々五々、再会を約束して会場を後にし、我等4期生は2次会場の「恵比寿の町」へ流れたのでした。



鏡割り

最後になりましたが、この度「水産学部4期5期6期の集

い」卒後30年の集いが開催出来、無事盛況に終えることができましたのは、ひとえに学校関係の皆様、三水会の理事役員、事務局の皆様のご尽力によるものです。大変お世話になりましたこと、紙面をお借りしまして御礼申し上げます。

水産学部水産食品学科6期
岡村 博登



2011年3月11日の東日本大震災による甚大な被害によって思い出の本校舎はその後取り壊され、学部は震災直後、相模原キャンパスに移転し、2012年に学部名称は「海洋生命科学部」と改名されました。そして旧三陸キャンパスは「三陸臨海教育研究センター」が設立され教育研究施設として運営されているとことです。

そうした経緯もあり1978年・79年・80年度卒業生の集いを開催するのには8年を要し、2019年11月9日16時北里大学白金キャンパス薬学部2号館1階にて念願の卒後38年ぶりに120名が参加して再会を果たしました。

来賓には、北里大学海洋生命科学部菅野信弘学部長そして、学生時代ご指導いただきました、現学校法人北里研究所緒方武比古常任理事をお

招きました。恩師では、魚類生理学の山森先生、環境生態学の井田先生にお越しいただいて、当時の思い出に話が盛り上がりしました。恩師のメッセージは水産利用学の川内先生、水族病理学の厚田先生そして学生課でお世話になった熊谷テ子さんから頂戴いたしました。思い出のスクリーンに流しながら当時を思い起こすことの幸せを感じました。

遠方はるばる北は北海道から南は佐賀県から、本来の目的は現役世代の交流の場との趣旨でありましたが、卒後38年もたてば還暦も過ぎ自分のために人生を歩みだした者が多く、仕事を離れ和気あいあした雰囲気を感じました。

私が大学2年の時には東北新幹線が開通しておらず、夜行列車で上野駅から一関駅、そこで乗り換え大船渡線、盛線と乗り継ぎ三陸駅そこからバスで崎浜。何と自宅を出てから丸一日かかりました。東北新幹線が大宮と盛岡間が開通したのが1982年、私が卒業した翌年です。丸一日は苦痛なので、皆車に分乗してきたものでした。中には東京恋しさで毎週週末相模原キャンパスに出没する者もいたり、またまた複数の部活に所属して夜な夜な酒を飲みかわし交流を深めるものもありました。三陸では、貴重な体験をすることが出来ました。

話は戻りますが、大学2年の1978年に宮城県沖地震があつて、本校舎とグラウンドに亀裂が入

る程でした。それから30年、この度の甚大な被害を及ぼした東日本大震災が水産学部在校舎をも打撃を受け、横浜でも良く食料品でお世話になった「中島商店」のご主人も津波に流されお亡くなりになりました。

私も仕事がいそいそには行けず、震災1年後被災地と学生時代お世話になった大家さんにお会いして心が打ち拉がれました。しかし、そうした困難のなかでも海と会話しながら漁業で生活を建てる姿に感動しました。そのような三陸は「第二の故郷」として体に染みついていきます。



5期生の皆さん



6期生の皆さん



4期生の皆さん

会は水産放浪歌の大合唱で締めくくりました。

今回大学卒業後初めて会うことが出来た旧友、これを縁にまた水産学部の輪が広がっていくことが人生にとって楽しいことのように思います。

結びに、この度参加いただいた皆様そして御来賓、メッセージをお送りいただいた恩師の方々にこのような盛大な会を催すことが出来たことを、運営委員の一人として心より感謝申し上げます。

厚田 静男・悦子



先日、三水会から連絡があり11月9日に集まりがある事を知りましたが、残念ながら出席できませんので、私の近状報告？

生存確認のため写真と文章をとの事でしたので、駄文をお送りいたします。

私は、今は岩手県獣医師会の食鳥検査センターに勤務しており、昨年から臨時対応検査員として、県内13か所にある食鳥処理場での検査に対応しています。月に5、6回色々な処理場での検査に派遣されており、70歳過ぎてもこき使われております。昨年までは岩手大学の獣医学

部で魚病学の非常勤をしておりまして、今年からはやっと辞めさせて貰うことができた。しかし、越喜来の浦浜念仏剣舞の笛を長年吹いており、いつの間にか師匠になってしまい、色々な場所でも公演を頼まれるために県内外へ行く事が多くなり、年明けの4、5日には東京の羽村市での公演をやる予定です。

今年は、台風で各地に被害が出ておりますが、皆様の所ではいかがでしたか？三陸では浦浜から崎浜の道路が崩落して何か所かが片側通行になっております。

これから冬に向かい気温も下がり、北海道では雪が降り始めました。またスキークの季節ですね、大船渡スキー協会の理事もしており、冬は大船渡スキー少年団や大船渡スキー教室の指導と楽しい時間が一杯です。

さて、家内は手芸やパッチワークのお店（オーブンテラス）をやっており、毎年2回サンリアショッピングセンターで手作りフェスタを主催し頑張っで遊んでおります。年寄り二人で何とかやっています。

一昨年に東京で、ブレーキとアクセルを間違えた車に追突され、頸椎損傷で一時は歩けないと診断されましたが、今は後遺症で左半身に痺れが残る要支援2とはなりましたがなんとか歩けるようになりました。リハビリのお蔭と思っております。来年にはパラグライダーにも再チャレンジと考えております。

死ぬまではタバコと遊びは止められませんがね！！！。

雑文になってしまい申し訳ありません、今後の皆様のご健康とご活躍をお祈りしております。三陸にいらした際には、生存確認にお寄りください。



熊谷 テイ子

お集まりの皆さんお元気でいらつしゃいますか。東日本大震災には三水会のご支援嬉しく感謝しております。

ました。水産魂の意気込みを発揮されましたね。私も退職して10年が過ぎてしまいました。とても速いですね。今、大船渡市は文化祭、芸術祭と賑わっておりますが、なんといつでも皆さん手作りの「漁火祭」は気仙に轟きましたよね。今でも記憶から消えることはありません。やり切った自信に満ちた勇姿には、打たれ強いと評価される所以と自負しております。現在は退職された方、勤めておられる方それぞれに過ごされておられると思います。日々を大切に過ごされますよう、くれぐれも



ご自愛くださいませ。友よ兄等よ何時また会える 学ラン、赤フン皆様のご健康にバンザイ。お世話になりました。

川内 浩司



卒業生の皆さん、こんにちは。皆さんは、卒業後約30年、それぞれの分野でご活躍されました。心から敬意を表します。これからも一層のご活躍を期待しています。これらの写真は、我々が三陸に存在することを世界に知ってもらおうと、共に、懸命に生きた水産学部創設期の大切な記録です。

現在、私は栗駒山の宮城県側の山麓を山野草の咲き乱れる里山にすることを人生最後のプロジェクトとして広大な山野を耕しています。貴重な山野草も見つけました。10年計画です。ボランティア大歓迎です。ぜひ、お出かけください。

水族育種生物学研究室の近況

講師 古川 史也

年号が変わって令和となり、あわただしく過ごしているうちに気が付けば半年が経過、2020年を迎えていました。2016年に着任して

あつという間に4年目が終わろうとしています。未だに「育種」っぽい研究に携わらないまま、もしかしたら2年後に控えた奥村先生のご退職とともに水族育種生物学研究室から放り出されるような気がしている。今日この頃です。このような理由から、私が研究室の近況をお伝えするのは不適當かもしれませんが、ご指名がありましたので存じ上げる限りのことを書いてみたいと思います。研究室の近況

現在、当研究室には奥村誠一教授と私の教員2名と、卒業研究を行う4年生が16名、修士課程の学生が1名所属しています。奥村先生は高価の養殖対象種であるアワビとナマコに着目し、飼育環境、特に成長と水質維持に効果的な複合養殖の研究や、餌の開発、暗視カメラを使った摂食行動の観察を進められています。これらのテーマが4年生に人気で、特に今年は奥村先生が多くの学生の指導に当たってくださっています。また、DNAマーカー等を駆使した遺伝育種学的なアプローチによるアワビ養殖の高度化や、海産無脊椎動物の染色体構成を明らかにする研究も行っています。私の研究テーマは、着任前から続けている「魚類の卵黄吸収過程で起こる代謝とその進化」や、北里に赴任してから開始した「アワビの細胞増殖と再生」、「ハイギョ腎尿管における糖代謝」、そして神奈川県水産技術センターの白井様にお誘いいただいて始

めた「キャベツで育てたムラサキウニ卵巣の形態観察」：と、節操のない感じになってきています。私の研究テーマは、細胞内の複雑な代謝経路や分子生物学的な内容が多く、学生からは敬遠されがちです（涙）。研究室の年間行事としては、論文紹介ゼミが1回、中間発表が3回のあと、最後に卒業発表会があります。学生数が多いので、どれも1日がかりです。また今年度からは、私のテーマで研究を行う学生は、毎週月曜日に1時間程度のミーティングを行い、進捗を報告しあって研究の理解を深めています。そのほかにも、（特に教員が）B B Qや飲み会などを行うのが好きなので、散発的に交流を深めています（図1）。

当研究室では、どのテーマの卒業研究を行うことになっても、全ての学生が必ず何らかの生き物のお世話に携わっています。現在、研究室で



図1 卒業研究発表会の後に開かれる、4年生と研究室配属予定の3年生の合同お疲れ様会の様子（2019年2月）

飼育している生き物は、エゾアワビ、マナコ、ゼブラフィッシュ、およびネッタイツメガエルであり、テーマによっては外から仕入れて一時的に飼育するもの（様々な貝類や棘皮動物、ハイギョ、チョウザメなど）があります。私たちは基本的に生き物を使って研究を行うため、飼育下の生き物を適切に扱い、健康に維持することが重要です。特に、奥村先生のテーマであるアワビとナマコの飼育実験を行う学生たちは、わずかなミスが原因となって生き物を全滅させてしまい、数か月やるはずだった飼育実験を中止しなければならなくなります。また、丁寧に飼育している動物が原因不明のへい死を起こすこともあり、飼育管理には非常に神経を使っています。このような大変さを実際に経験できるという点でも、卒業研究を行う意義があるのかな、と個人的に思うことがあります。卵黄代謝に関する研究

頑張って近況紹介文を書きました。が、やはり文字数が足りませんでした。折角ですので、私の研究内容を簡単に紹介させていただきます。私は主に魚類の卵黄吸収機構に興味をもつて研究しています。もう少し正確に言えば、胚や仔魚のお腹についている「卵黄嚢」と呼ばれる半透明（黄色っぽい袋）の中で、どのような現象が起こっているかに興味があります。以前の私もそうでしたが、多くの方は、あの卵黄は腸から吸収されてなくなるだろう、と思われるこ

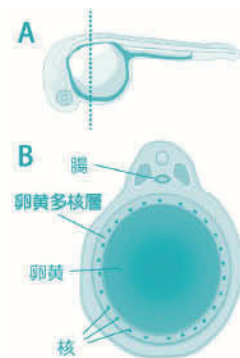


図2 ゼブラフィッシュの受精後1日目胚(A)と、それを点線の部分で切断した断面の模式図(B)。

と思います。しかし実際に調べてみると、卵黄の吸収に腸は関与しておらず、卵黄を包んでいる「卵黄多核層(図2)」と呼ばれる特殊な細胞層によって卵黄が細かく分解され、血液へと送られる過程が観察されています。この卵黄多核層の機能を詳細に知ることは、魚類の発生過程を理解するうえで非常に重要な気がしますが、実は今日まであまり研究されていません。以前より、水産養殖の現場で起こる胚や仔魚のへい死の原因として卵質(≡卵黄の質)が度々挙げられますが、彼らが「どのように卵黄を吸収しているか」という基本的な情報が不足している状態です。そこで、私たちがゼブラフィッシュという熱帯魚をモデルとして調べた結果、卵黄囊の中で活発に「代謝」が行われているという事が最近わかってきました。通常、成

魚は肝臓の代謝機能により、体内のアミノ酸や脂質、糖質などの量を適切な範囲内に維持しています。しかし、発生初期の魚の体内では、しばらくしてからでないといと肝臓ができません。そこで胚や仔魚は、お腹についた卵黄囊の中で、適切にこれを分解・変換して、自分にとって必要な栄養素を得ている、という事が見えてきたわけです。つまり、母親が用意してくれた卵黄は「そのまま」使える万能な栄養源ではないのかもしれない。まだまだ書きたいことでもあります。研究の話になると急に饒舌になる研究者の典型的な例で、長くなりそうですのでこのあたりで筆を止めようと思います。ここまで読んでいただきありがとうございます。

毎年この時期(1月)になると、4年生の卒業論文指導で多忙になるとともに、一人ひとりの学生に時間や労力をもっと割けたのではないかと後悔します。ちょうど、流れる滝の水を受け止めようとするものの、指の間からどんどん水が落ちていくような感覚です。そんな中でも、卒業生の研究室への訪問や、また卒業生の集まりなどに声をかけてもらえるのは嬉しいものです。冒頭に書いたように、奥村教授の在職期間もわずかとなりましたが、これを読んでいる皆様もお気軽に研究室にお立ち寄りいただければ幸いです。

準会員活動報告

北里大学北里会体育会 ラグビー部

主将 渡部 大河

(海洋生命科学部3年)

三水会の皆様、「太鼓」の皮を張り替えていただきありがとうございます。

毎年4月に行われる部活紹介において、ラグビー部は「太鼓」を使わせていただいております。他のスポーツよりも目立たず、痛いなどのマイナスなイメージがラグビーにはあると思います。そのため、他の団体の紹介や発表よりもインパクトがあり、迫力のある団体の紹介が必要です。そこで、毎年お借りしている「太鼓」を用いて披露することで、ラグビー部の雄々しさを新入生の1年生の皆さんに披露することができております。

発表の時には、前の団体が終わり、ラグビー部の番になった時にまず「太鼓」が入場し、その太鼓の勇ましい音と共に、鍛え上げられた体をしたラグビー部員たちが入場し、部活の紹介をします。その後、また、



「太鼓」の音と共に退場していきます。大きな体育館に鳴り響く素晴らしい太鼓の音色によって部活の紹介の締め切りが全



然違います。また、今年は皮を張り替えていただいたことによって太鼓の音色が一段と素晴らしく、体育館中に美しい太鼓の音色が響き渡っております。

素晴らしい「太鼓」があつたおかげでかなり新入生にインパクトを残すことができました。そのため、勧誘した新入生の方たちは、かなり好感触で勧誘することができ、またラグビー部の存在をしっかりと新入生に認識してもらうことができました。話しかけた1年生には、「太鼓」がすごかったなどの声をかけてくれる方もいらつしやいました。そのような甲斐もあり、今年のラグビー部の新入生は、ブレイヤーマネージャーを含めて、例年よりも多めの20人以上の部員が入部を決めてくれました。部員が増えたため、ラグビー部

の練習もかなり精度が高く密度の濃い練習ができるようになりました。この勢いのままりーグ戦も勝利を収めていきたいと思っています。

これだけの新人部員が入部してくれて、チームの雰囲気は良くなってきたのも、この素晴らしい「太鼓」のおかげです。皮を張り替えて修理してくださったことで、おかげさまで例年以上に良い効果を得られたと思います。「太鼓」を修理していただいてありがとうございます。これからも毎年使わせていただきます。そして、これからも毎年この素晴らしい「太鼓」の音色によって新入生を多く入れられるようにしていきたいと思っています。ありがとうございます。

バーベキュー会に参加して

北里大学海洋生命科学部2年
菊池 武慈

11月30日に北里大学の海洋生命科学部OBバーベキューに参加させていただきました。当日は買い出しから始まり、スーパで調味料や主役の肉、他にも、ししゃも：ではなくカペリンなどを買っていただきました。バーベキュー場に着くとOBの方が既にいらつしゃつており火をすぐにかけて食材を焼こうとしましたがなかなか火がつきませんでした。学生が苦戦していると井田先生が火起こしを手伝ってくださり火をつけ

られることができました。最初に豚汁を作りました。最後の味噌を入れたら溢れてしまいうくらいに鍋いっぱいになりましたが全て売れてよかったです。海洋生命科学部OBのほとんどの方は潜水部のOBでもありました。井田先生は水産学部創設当時助教でいらっしゃり、48期の私は約半世紀の歴史を感じました。水産学部が三陸にあった頃は大学の近くに海があり、今の潜水部のように伊豆へ2時間かけて行かなくても潜れる環境にあったことを羨ましく思いました。部員も多くなく、今の部員が90人と聞いてOBの方は驚かれました。逆に自分がOBの方の話を聞いて驚いたことは三陸時代のトレーニング法です。海に機材を落として、それをすべて身につけて上



がてくるというトレーニングでした。今の部活ではこのようなトレーニングは行っていないので私も海の中でより上手く、より冷静になるためにこの練習をやってみたいと思いました。バーベキューのメンバーが集まってきたところで井田先生が持つてきてくださったプレゼントをかけてジャンケン争奪戦が行われました。1番人気は井田先生監修の魚図鑑でした。惜しくもジャンケンには負けてしまいましたが私は葛飾北斎のポーチを買いました。今はダイコンとログブックを入れていきます。バーベキューは主役のお肉を焼くところまで来ました。越川さんにいいお肉を買っていただいたので皆さんサツと焼いて塩胡椒で食べていました。ワサビ醤油をつけても絶品でした。カペリンも美味しくいつか本当のししゃもの味も知るべく北海道に行きたいと思いました。この後鶏肉、焼きおにぎりなどを食べてお腹が膨れてきたところですが、網の上では大判焼大会が始まりました。やっぱりデザートは別腹でした。バーベキューを通してダイビングの話をしながらいよいよご飯をたくさん食べられて充実した1日でした。

OBの方のように日本中で活躍できるように今は勉強と遊びに専念したいと思います。バーベキューに呼んでいただきありがとうございます。

看護学部準会員だより

北里文化会病院奉仕団
3N 新家 望美

8月23日(金) 北里大学病院小児病棟にて夏祭りの会が開かれました。夏祭りの会の企画・運営を北里文化会病院奉仕団が行いました。夏祭りの会のプログラムとして盆踊りがあり、水産学部(現・海洋生命科学部)の卒業生から寄贈された太鼓を海洋生命学部の事務の方からお借りし使用させて頂きました。個人情報関係もあり写真には入院患者さんの姿はありませんが、「月夜のボンチャラリン」という曲に合わせて入院している子供達と病院奉仕団の団員、ボランティアとして参加してくださった高校生等、皆で太鼓を囲んで踊りました。太鼓があることにより一気に夏祭り感が出て、辛い入院生活を過ごしている子供達が病院ということを忘れ、地元の祭りに来ているかのように楽しそうにいました。また、普段寝たきり状態でベッドでしか過ごせていない子供達も太鼓の音につられて病室から出てきて音に合わせて体を動かしたりしていました。夏祭りの会の最初と最後の2回盆踊りを行い、最初は病院奉仕団の団員が太鼓を叩いていましたが、最後には入院中の子供達から叩きたいとの要望があり楽しそうに叩いていました。北里大学病院には北里学級という院内学級があるのですが、学級の先生が「子供達が普



段とは違う表情をしていた。とても楽しそうだった。」「保護者の方も今日は明るい表情をしていた。」とおっしゃっていました。雰囲気作りに太鼓が大いに活躍していたと私は感じました。

最近、新たに三水会有志の方々からのご厚意により、太鼓の皮を張り替えたと海洋生命学部の事務の方から伺いましたが、立派な太鼓をお貸しいただき、おかげで夏祭りの会も盛り上がりました。とても感謝しております。ありがとうございます。

来年度以降も夏祭りの会は続いているため今後もお借りしたいと考えております。これからもよろしく願います。

〃 掲 示 板 〃

■ 2020年度三水会定期総会のご案内

下記により2020年度三水会定期総会を開催します。

理事、監事、代議員はもとより一般会員も傍聴できますのでご参加ください。

開催日時：2020年5月23日（土）午後5時～（受付4時30分）

開催場所：北里大学白金キャンパス 薬学部2号館3階2301大講義室

（注）：開催場所は大学の都合により変更される場合がありますので、ご参加の方は下記の三水会事務局までご確認ください。

TEL：0120-873-135 <http://kitasato-sansuikai.jp/>

- 議 事：1. 2019年度事業報告及び収支決算報告。
2. 2019年度監査報告。
3. 2020年度事業計画及び収支予算。
4. その他。

*総会終了後、来賓を交え懇親会を予定しています。

■ 親睦会開催支援について

三水会では三水会会員の親交を深め、会員同士の交流を盛んにするために地区親睦会開催に対して毎年支援を行っております。活発に親睦会が開催されるようにするため、支援に関する申請手続きや条件などの情報をホームページにて具体的に提示しています。ぜひ、三水会会員の交流にご活用いただきたいと思います。

また、研究室OB会、同期会、クラブOB会等の支援につきましても、三水会ホームページご覧の上、詳細は三水会事務局まで問い合わせください。

■ 2020年度「水産学部卒業後30年の集い」のお知らせ

三水会では昨年度につづき、水産学部卒業後30年の集いの開催を予定しています。

開催日時、対象卒業期などは決まり次第、三水会HPに掲載します。また、9月発行の三水会報にて、ご案内などお知らせします。

編集後記

2019年は11月9日に白金キャンパスにおいて全学同窓会公開講演会を大勢の会員の皆様にご参加いただき大いに盛り上げることができました。さらに、同日に4期5期6期の皆様の同期会を開催し、こちらもたいへん賑やかな会となりました。2020年も各地区の親睦会をはじめ、三水会の会員の皆様の親交が深まる新年度になれば幸いです。7期生以降の親睦会の企画も進めていく予定でおりますので、ぜひ奮ってご参加いただければと思います。